

太陽による方向角計算

※解説内容がオプションプログラムの説明で
ある場合があります。ご了承ください。



参考文献

「北極星・太陽による方位角測定の実際」
(社)日本測量協会

目次 太陽による方向角計算

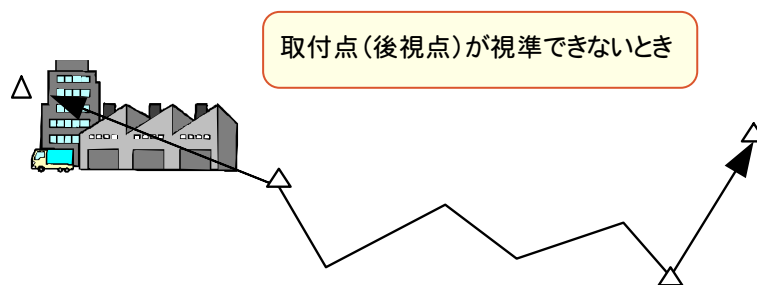
1. 太陽観測とは	1
1-1 どういう場合に使うのか	1
1-2 原理	1
1-3 真北と北軸と磁北について	1
1-4 方位角と方向角について	2
1-5 観測の注意	2
1-6 観測の準備	2
1-7 観測の開始	3
1-8 太陽による方向角観測例(1対回&2観測)	4
2. 太陽による方向角計算へのデータ入力	5
2-1 丸めを設定する	5
2-2 計算条件を設定する	6
2-3 観測データを入力する	7
2-4 計算書を作成する	8

1 太陽観測とは

1-1 どういう場合に使うのか

基準点測量においてその出発点、または、結合点（閉合点）で、既知点への見通しがない場合に、これらの点において、方位角の観測を行ない、これを既知点方向として多角路線（点検路線）の方向角を決めます。

このときの取り付け点として、あるポイントに点を作成し、発点から作成した点までの方位角を測定し、角の閉合差を算出する時に利用します。



つまり、太陽観測にて、既知点とあるポイント点、2点間の方向角を求めておけば、いろいろな測量に役立つ訳です。

1-2 原理

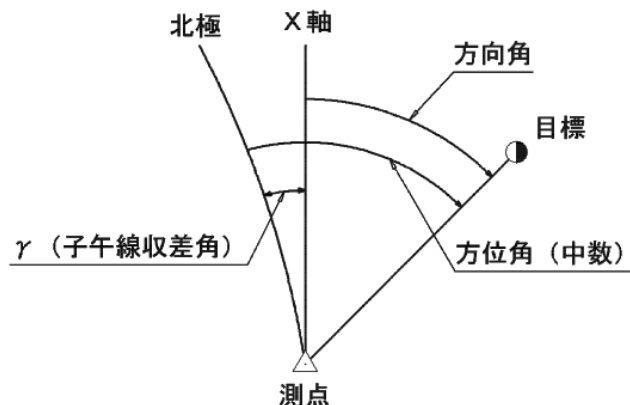
地球の傾きや、自転周期、公転周期は一定で、その上にいる観測者のポイント（緯度、経度）や時間から太陽の方向の方位角がわかります。これを、表にして記載したものが「理科年表」として、毎年出版されています。そこに記載されている数値を利用して、ある点への方向角を計算で求めることができます。

1-3 真北と北軸と磁北について

- ① 真北とは、その地点を通る子午線の北極の方向です。
- ② 北軸(X軸)とは、その地点を通る平面直角座標系のX軸の方向です。
- ③ 磁北とは、その地点で方位磁針が指す方向です。

1-4 方位角と方向角について

- ① 方向角とは、座標の北軸から測定した測線の角をいいます。
- ② 方位角とは、真北方向から測定した測線への角をいいます。



「太陽による方向角計算」は太陽の観測を複数回行い、その観測から計算された方位角の中数から方向角を計算します。

1-5 観測の注意

方位角の測定に太陽を観測する場合、太陽の方向が水平方向になる時、つまり、太陽の南中付近にきた時は観測に最も不利です。その付近は太陽の見かけの動きが速く、1秒間で水平角度にして数10秒以上移動するので、時刻の測定誤差が、水平角の観測に大きく影響します。

それを避けるために、太陽の移動が水平方向に小さく、鉛直方向に移動する、日の出から午前9時以前、15時から日没までに、観測する事が望ましいです。しかし、水平線の近くではかえって太陽の像がゆれたり、くずれたりするのでかえって良くないです。

1-6 観測の準備

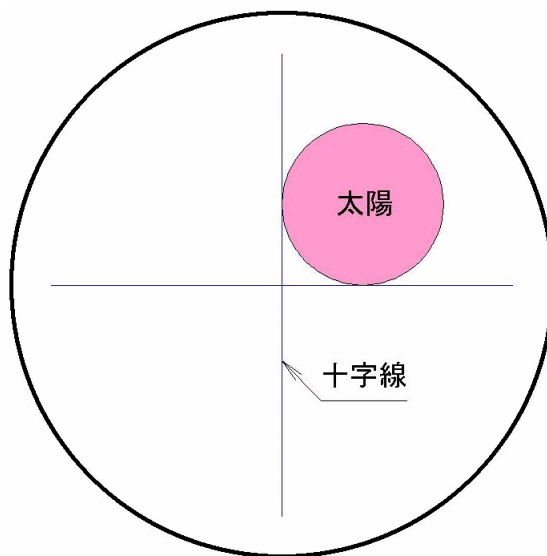
- ① 太陽をトータルステーションで観測するので、減光の為のフィルターを用意します。
- ② 観測に使用する時計を(JJY)に合わせます。
ホームページから日本標準時(JST)を取得することもできます。

1-7

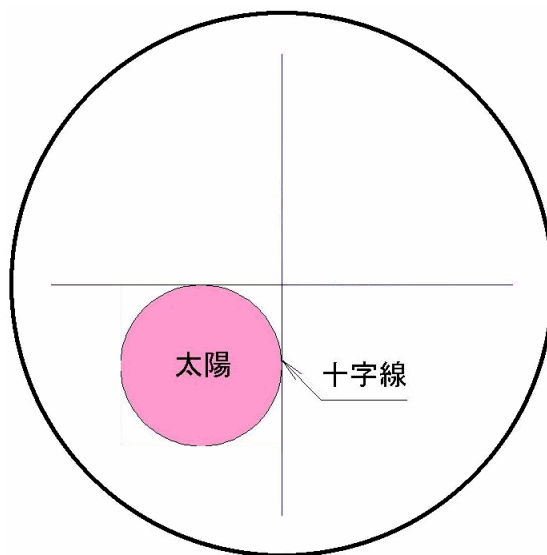
観測の開始

1対回&1観測、3回の例で説明します。

- ① トータルステーションの望遠鏡(正)で水平目盛板の目盛を 0° 付近の位置にし、方向として設置した後視点(m)を視準し、水平角を読定します。
- ② 望遠鏡(正)で下記のように太陽(S)の像を正しく十時線に接させた瞬時の時間を読みとり、その時の水平角を読定します。



- ③ 速やかに望遠鏡(反)にして、下記のように太陽(S)の像を正しく十時線に接させた瞬時の時間を読みとり、その時の水平角を読定します。



- ④ 望遠鏡を方向として設置した後視点(m)を視準し、水平角を読定します。

以上で、 0° における1対回の観測が完了です。

次に、目盛位置を 60° 望遠鏡(反)で、対回の観測を前述と同様に行ないます。

次に、目盛位置を 120° の観測を望遠鏡(正)で、対回の観測を、前述と同様に行ないます。

通常、1観測で、3回、あるいは5回行います。偶数回の観測(2、4回目)は、望遠鏡(反)で方向として設置した後視点(m)を視準します。

5回の場合の目盛位置は、 $180^\circ \div 5$ ですから、 0° 、 36° 、 72° 、 108° 、 144° です。

1-8 太陽による方向角観測例(1対回&2観測)

① まず後視点を視準します。このときに観測値(水平角)を手簿に記入。

② 次に太陽を視準します。このときに観測時刻と観測値(水平角)を手簿に記入。

16:35:08

③ 続けて太陽を視準します。このときに観測時刻と観測値(水平角)を手簿に記入。

16:35:27

④ 望遠鏡を反転して、太陽を視準します。このときに観測時刻と観測値(水平角)を手簿に記入。

16:35:39

⑤ そのまもう一度、太陽を視準します。このときに観測時刻と観測値(水平角)を手簿に記入。

16:35:58

⑥ 後視点を視準します。このときに観測値(水平角)を手簿に記入。

観測結果

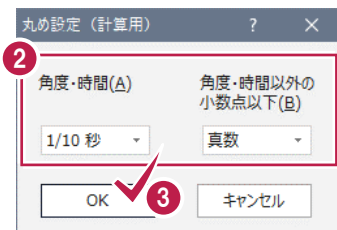
対回	輪郭	望遠鏡	目標	観測の時	観測値(水平角)
1	0°	r	m		0° 1' 2" ①
			s	16:35:08 ②	278° 35' 51" ②
		l		16:35:27 ③	278° 37' 09" ③
				16:35:39 ④	99° 34' 32" ④
				16:35:58 ⑤	99° 35' 23" ⑤
			m		180° 00' 58" ⑥

2 太陽による方向角計算へのデータ入力

2-1 丸めを設定する

[専用コマンド]タブ-[設定]グループ-[丸め]で丸めを設定します。

入力例では理科年表に記載されている「均時差」が0.1秒単位なので、[角度・時間]の丸めを「1/10秒」にします。



1 [専用コマンド]タブ-[設定]グループ-[丸め]をクリックします。

2 3
丸めを設定して、[OK]をクリックします。

2-2 計算条件を設定する

[専用コマンド]タブ-[設定]グループ-[計算条件]で計算条件を設定します。



1 [専用コマンド]タブ-[設定]グループ-[計算条件]をクリックします。

2 観測日(D) 平成14年 03月 02日

観測者(M) ○村×男

目標名(I) T1 原点経度(O) 139.00000

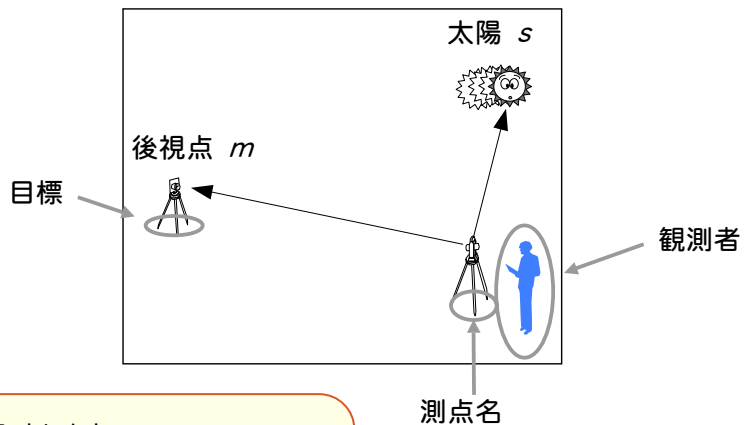
測点(S)
 名称: A1 緯度: 35.42210
 経度: 139.45220

均時差(K)
 当日: -0.12155 翌日: -0.12033

視赤緯(E)
 当日: -7.21230 翌日: -6.58290

3 OK キャンセル

2 3 観測日、観測者、目標名、原点経度、測点、均時差、視赤緯を入力して、[OK]をクリックします。



上の日付(平成14年3月2日)より、理科年表を引いて入力します。

理科年表2002(写し)
 太陽 平成14年 3月 2002

日次	七曜	通日	世界時0h			東京、中央標準時		
			視赤経 h m s	視赤緯 ° ' "	均時差 m s	出 h m	南中 h m s	入 h m
1	金	60	22 46 57.3	- 7 44 11	-12 27.3	6 12	11 53 27	17 36
2	土	61	22 50 42.1	7 21 23	12 15.5	6 10	11 53 15	17 37
3	日	62	22 54 26.4	6 58 29	12 3.3	6 9	11 53 3	17 38
4	月	63	22 58 10.2	6 35 28	11 50.6	6 8	11 52 50	17 38
5	火	64	23 1 53.7	6 12 23	11 37.4	6 6	11 52 37	17 39

観測時刻が午前9時以前の場合は、均時差および視赤緯は前日の表をもちい、観測時刻は +24.0してください。

また符号の記載が無い場合は、前行(前行にも記載が無い場合はその前行...)の符号を使用します。

2-3 観測データを入力する

[専用コマンド]タブ-[データ編集]グループ-[観測データ入力]で、観測データを入力します。
 入力例では、野帳(1対回&1観測、3回の場合)のデータを入力します。(下図の観測手簿参照)

No.	番号	輪郭	望遠鏡	目標	観測時刻	観測値	正反の平均
1	1	0	r	m		0.01050	0.01075
2				s	15.47500	52.33200	52.57000
3			l	s	15.49020	233.20400	
4				m		180.01100	
5				T =	15.48260		
6				m-s			307.04075
7	2	60	l	m		240.01100	240.01070
8				s	15.52180	293.55130	293.47180
9			r	s	15.54030	113.39230	
10				m		60.01040	
11				T =	15.53105		
12				m-s			306.13490
13	3	120	r	m		120.00500	120.00500
14				s	16.15140	177.15350	177.38050
15			l	s	16.16220	358.00350	
16				m		300.00500	
17				T =	16.15480		
18				m-s			302.22450

観測パターン(P)

正のみ観測 & 1観測 正のみ観測 & 2観測

正反観測 & 1観測 正反観測 & 2観測

項目並替(C)... テンプレート(I)...

OK キャンセル

1 [専用コマンド]タブ-[データ編集]グループ-[観測データ入力]をクリックします。

2 3 観測パターンを選択して、各観測時刻、観測水平角を入力して、[OK]をクリックします。

[専用コマンド]タブにデータが入力されます。

No.	輪郭	平均観測時刻	時刻補正值	測角
1	0	15.48260	0.0	307.04075
2	60	15.53105	0.0	306.13490
3	120	16.15480	0.0	302.22450
4				
5				

観測データの出力

現場名: サンプル
 測点名: A1
 目標名: T1
 測点緯度 B = 35-42-21.0

観測手簿

平成 14 年 4 月 1 日

観測日: 平成 14 年 3 月 2 日
 観測者: ○村×男
 測点経度 L = 139-45-22.0 原点経度 L0 = 139-50-00.0

番号	輪郭	望遠鏡	目標	観測の時	観測値	正反の平均	
1	0	r (正)	m		0-01-05.0	平均 0-01-07.5	
			s	15-47-50.0	52-33-20.0		52-57-00.0
			l (反)	15-49-02.0	233-20-40.0		
			m		180-01-10.0		
			T =	15-48-26.0	平均		307-04-07.5
m-s							
2	60	l (反)	m		240-01-10.0	240-01-07.0	
			s	15-52-18.0	293-55-13.0	293-47-18.0	
			r (正)	15-54-03.0	113-39-23.0		
			m		60-01-04.0		
			T =	15-53-10.5		306-13-49.0	
m-s							
3	120	r (正)	m		120-00-50.0	120-00-50.0	
			s	16-15-14.0	177-15-35.0	177-38-05.0	
			l (反)	16-16-22.0	358-00-35.0		
			m		300-00-50.0		
			T =	16-15-48.0		302-22-45.0	
m-s							

2-4 計算書を作成する

計算書を作成します。



1 [専用コマンド]タブ-[計算書]グループ-[計算書作成]をクリックします。

2 3

[計算書グループ]で「観測計算書」を選択し、[計算書タイプ]を選択して、[OK]をクリックします。



作成する計算書を、プレビューで確認できます

[プレビュー選択] ボタンを押すと、作成する計算書をプレビューで確認することができます。



観測時刻	方位角	傾斜角	方位角誤差	傾斜角誤差
08:00:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:05:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:10:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:15:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:20:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:25:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:30:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:35:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:40:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:45:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:50:00	135.000	15.000	0.000	0.000
08:55:00	135.000	15.000	0.000	0.000
09:00:00	135.000	15.000	0.000	0.000

太陽による方向角計算 計算書

平成 26 年 4 月 7 日

現場名:新現場

観測日:平成 14 年 3 月 2 日

原点経度 L0 = 139-50-00.0

測点名:A1

測点緯度 B = 35-42-21.0

観測者

目標名:T1

測点経度 L = 139-45-22.0

○村×男

輪 郭	0	60	120
観測時刻 T =	15-48-26.0	15-53-10.5	16-15-48.0
時刻補正值 ΔT =	0-00-00.0	0-00-00.0	0-00-00.0
T =	15-48-26.0	15-53-10.5	16-15-48.0
中央子午線経度 λ0 =	-9-00-00.0	-9-00-00.0	-9-00-00.0
世界時 UT =	6-48-26.0	6-53-10.5	7-15-48.0
当日均時差 E1 =	-0-12-15.5	-0-12-15.5	-0-12-15.5
翌日均時差 E2 =	-0-12-03.3	-0-12-03.3	-0-12-03.3
均時差補正值 ΔE =	0-00-03.5	0-00-03.5	0-00-03.7
均時差 E =	-0-12-12.0	-0-12-12.0	-0-12-11.8
視世界時 AT =	6-36-14.0	6-40-58.5	7-03-36.2
日の小数 d =	0.283634259	0.286927083	0.302638889
当日視赤緯 δ1 =	-7-21-23.0	-7-21-23.0	-7-21-23.0
翌日視赤緯 δ2 =	-6-58-29.0	-6-58-29.0	-6-58-29.0
視赤緯補正值 Δδ =	0-06-29.7	0-06-34.2	0-06-55.8
視赤緯 δ =	-7-14-53.3	-7-14-48.8	-7-14-27.2
視世界時 AT =	6-36-14.0	6-40-58.5	7-03-36.2
観測点経度(時) L =	9-19-01.5	9-19-01.5	9-19-01.5
地方視太陽時 LAT =	15-55-15.5	16-00-00.0	16-22-37.7
時間差 =	-12-00-00.0	-12-00-00.0	-12-00-00.0
時角(時) th =	3-55-15.5	4-00-00.0	4-22-37.7
時角(度) t° =	58-48-52.5	60-00-00.0	65-39-25.5
tan δ =	-0.127183060	-0.127160890	-0.127054479
sec t =	1.931212978	2.000000000	2.426024932
tan M =	-0.245617576	-0.254321781	-0.308237333
観測点緯度 B =	35-42-21.0	35-42-21.0	35-42-21.0
M =	-13-47-58.8	-14-16-08.6	-17-07-52.5
B-M =	49-30-19.8	49-58-29.6	52-50-13.5
cos M =	0.971135668	0.969148990	0.955632499
tan t =	1.652145141	1.732050808	2.210338655
cosec(B-M) =	1.314979196	1.305887660	1.254829425
tan A =	2.109827674	2.192082993	2.650540371
太陽の方位角 A =	244-38-25.2	245-28-41.3	249-19-46.0
測角m-S =	307-04-07.5	306-13-49.0	302-22-45.0
方位角 A =	191-42-32.7	191-42-30.3	191-42-31.0

番号	方位角	δ	δ δ
1	191-42-32.7	-1.4	1.96
2	191-42-30.3	1.0	1.00
3	191-42-31.0	0.3	0.09

中数 191-42-31.3 δ δ 計 3.05

ΔL = L-L0 = -0-04-38.0

sin B = 0.583623887

-γ = 0-02-42.2

M = ± 0.7

方向角 = 191-45-13.5



計算書の説明

「2-4 計算書を作成する」で作成した計算書の0輪郭で説明します。

B (緯度)	観測点の緯度 (成果表又は5万分の1の地図上等から求める。)
L (経度)	” 経度 ”
L 0	観測点の所属する平面直角座標系の原点の経度
輪郭 (目盛)	通常5対回で、36° 輪郭づつ。 180 ÷ 対回数
観測時刻 T' =	各対回の観測時刻の平均値 (観測手簿計算書を参照)
時刻補正值 Δ T =	観測の前後に時報等を聞いて、観測時に使用している時計との誤差を測定。 (たいていの場合、観測前にデジタルウォッチで時刻を合わせてから観測に出かけるため、たいてい「0」。)
T =	補正後の観測時刻 (※午前9時より前の時は、+24する)
中央子午線経度 λ 0 =	-9 世界時 = 日本標準時 - 9 (上式より-9することで世界の標準時にする↓)
世界時 UT =	補正後の観測時刻 (※午前9時より前の時は、+24する)
当日均時差 E 1 =	理科年表より (前表参照) -12分 15.5秒
翌日均時差 E 2 =	理科年表より (前表参照) -12分 3.3秒
均時差補正值 Δ E =	(E 2 [翌日均時差] - E 1 [当日均時差]) × d [日の小数] -例- {(-12分 3.3秒) - (-12分 15.5秒)} × 0.283634259 = 3.5秒
均時差 E =	E 1 [当日均時差] + Δ E [均時差補正值]
視世界時 AT =	UT [世界時] + E [均時差]
日の小数 d =	UT [世界時] を日単位にする -例- UTが6時48分26秒の場合 $\frac{(\{26秒 ÷ 60\} + 48分) ÷ 60 + 6時}{24時} = 0.283634259$
当日視赤緯 δ 1 =	理科年表より (前表参照) -7° 21' 23"
翌日視赤緯 δ 2 =	理科年表より (前表参照) -6° 58' 29"
視赤緯補正值 Δ δ =	(δ 2 [翌日視赤緯] - δ 1 [当日視赤緯]) × d [日の小数] -例- {(-6-58-29.0) - (-7-21-23.0)} × 0.283634259 = 0-6-29.7
視赤緯 δ =	δ 1 [当日視赤緯] + Δ δ [視赤緯補正值]
視世界時 AT =	UT [世界時] + E [均時差]
観測点経度(時) L =	観測点の経度を時間に直したもの -例- 139° 45' 22" の場合 $\frac{(\{22'' ÷ 60\} + 45') ÷ 60 + 139°}{15} = 9-19-01.5$
地方視太陽時 LAT =	AT [視世界時] + L [観測点経度(時)]

時間差		-12時	
時角(時)	$t_h =$	LAT [地方視太陽時] - 12時	
時角	$t^\circ =$	t _h [時角] を角度に直す 一例- 3時55分15.5秒の場合 [(((15.5秒÷60) + 55分) ÷ 60) + 3時] × 15 = 58-48-52.5	
	$\tan \delta =$	$\tan (\delta$ [視赤緯])	
	$\sec t =$	\cos (時角 (t°)) の逆数	
	$\tan M =$	$\tan \delta$ [視赤緯] × $\sec t^\circ$ [時角 (t°)]	
観測点緯度	$B =$	観測点の緯度 (入力値) 35° 42' 21.0"	
	$M =$	$\tan M$ より求める ($\tan^{-1} (\tan \delta$ [視赤緯] × $\sec t^\circ$ [時角 (t°)])	
	$B - M =$	B [観測点経度] - M	
	$\cos M =$	$\cos M$	
	$\tan t =$	$\tan t^\circ$ [時角 (t°)]	
	$\operatorname{cosec} (B - M) =$	$\sin (B$ [観測点経度] - $M)$ の逆数	
	$\tan A =$	$\cos M \times \tan t \times \operatorname{cosec} (B - M)$	
太陽の方位角	$A =$	$\tan A$ より求める ($\tan^{-1} (\cos M \times \tan t \times \operatorname{cosec} (B - M))$)	
測角	$m - S =$	測角 307-04-07.5	
方位角	$A =$	A [太陽の方位角] + $(m - S)$ [測角]	
	$\Delta L = L - L_0 =$	L [測点経度] - L_0 [原点経度]	
	$\sin B =$	$\sin B$ [測点緯度]	
	$-\gamma =$	$\Delta L \times \sin B$	
番号	方位角	δ	$\delta\delta$
1	191-42-32.7	-1.4	1.96
2	191-42-30.3	1.0	1.00
3	191-42-31.0	0.3	0.09
中数	191-42-31.3	$\delta\delta$ 計	3.05
		$M = \pm$	0.7
	方向角 =	中数 - γ	
	方向角 =	191-42-31.3 + 0-02-42.2	
	方向角 =	191-45-13.5	

標準偏差

$$M = \pm \sqrt{\frac{(\delta\delta)}{n(n-1)}}$$

$$= \pm \sqrt{\frac{(3.05)}{3(3-1)}}$$

$$= 0.7129\dots$$

$$= 0.7$$